

小田原市・足柄下地区
資源化検討会
第4回

日時 平成21年11月24日(火)
午後2時～4時

会場 真鶴町民センター 3階 講堂



2 報告

(2) 第2回資源化検討会での質疑事項

町田市の生ごみリサイクルについて

町田市では、業務用生ごみ処理機を使って、家庭から排出される生ごみの減量化、資源化を推進しています。

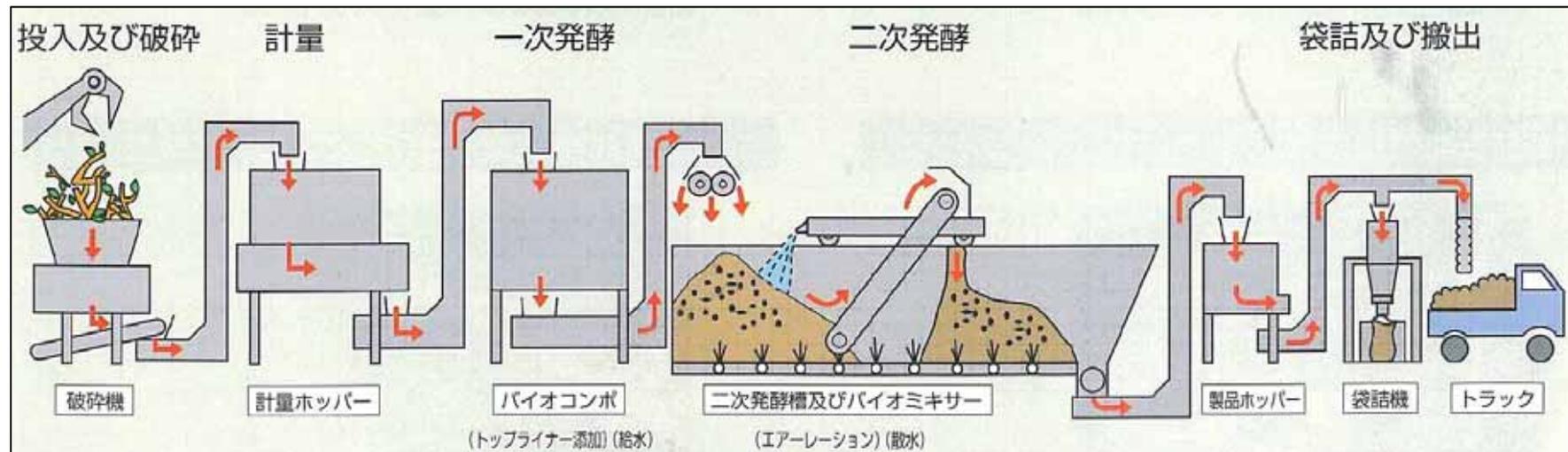
町内会、自治会、団地アパートなど、10世帯上で構成される団体に、市が業務用生ごみ処理機を貸与し、その団体が業務用生ごみ処理機を利用して、家庭から排出される生ごみの堆肥化を行い、できた堆肥を地域で使うよう努めています。

業務用生ごみ処理機を借りる団体は、市が無償で借りられる設置場所を確保し、市は、業務用生ごみ処理機の設置費用、電気料、メンテナンス費用等を負担しています。



昭和記念公園の事例について

国営昭和記念公園では、循環型の公園づくりを目指すことに加え、環境に負荷をかけない循環型の社会を学ぶ環境学習の場として活用することを目的として、園内から発生する剪定枝のチップ化、堆肥化を行っています。できたチップや堆肥は、マルチング材や土壌改良剤、堆肥として園内で活用されています。



国営昭和記念公園 緑のリサイクルセンター



3 議題

- (1) 生ごみ、剪定枝の
潜在量と分別の協力率

生ごみ、剪定枝の潜在量

(1) 可燃ごみ組成割合

表 可燃ごみ組成割合

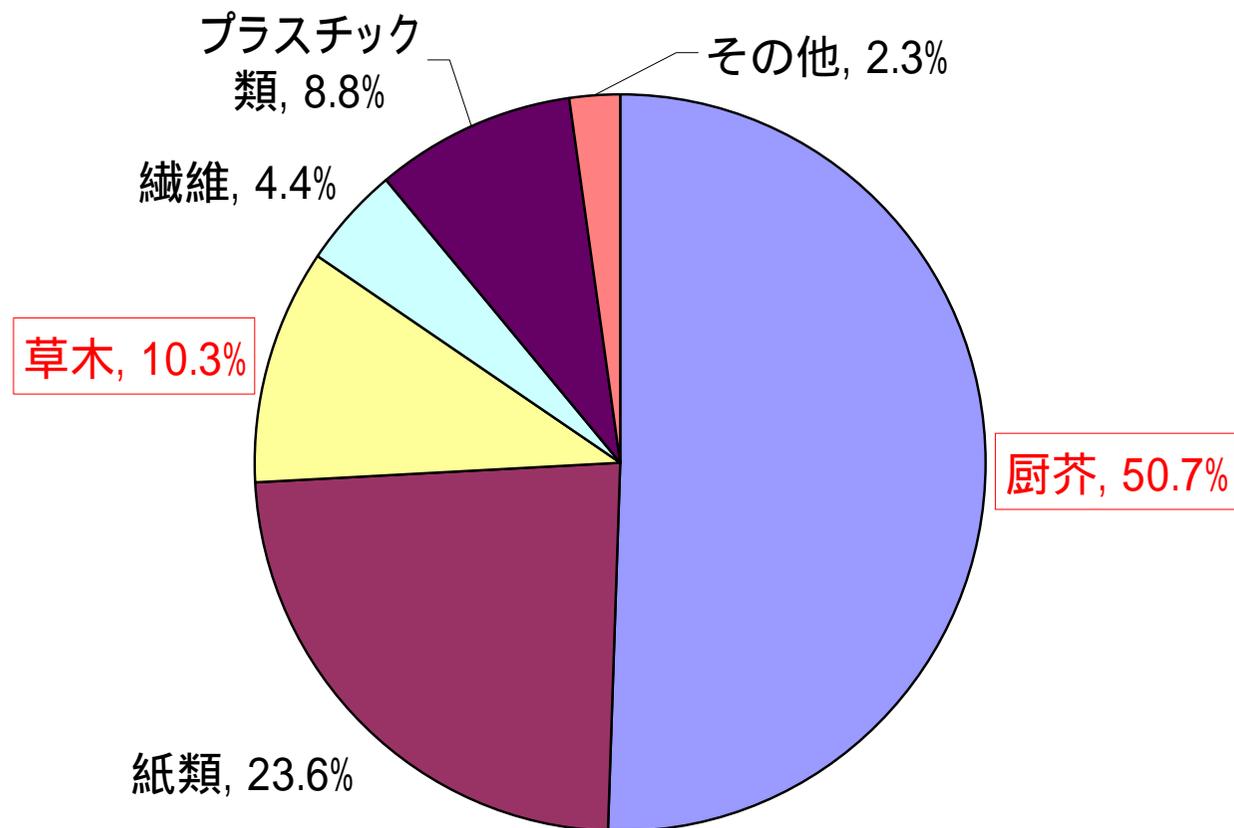
(単位: %)

項目	小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町	1市3町
厨芥	51.8%	42.0%	55.3%	55.3%	50.7%
紙類	22.2%	33.2%	18.8%	18.8%	23.6%
草木	11.7%	5.0%	10.4%	10.4%	10.3%
繊維	5.6%	2.9%	1.5%	1.5%	4.4%
プラスチック類	6.7%	13.8%	11.5%	11.5%	8.8%
その他	2.0%	3.1%	2.5%	2.5%	2.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

- 1 「その他」とは、ゴム・皮革類、その他可燃物類、金属類、ガラス類、陶磁器・石、電池、危険物等、その他不燃物類
- 2 調査日 小田原市(平成16年7月15日、平成16年10月21日)、箱根町(平成19年1月31日)、湯河原町(平成16年7月14日、平成16年10月20日)

生ごみ、剪定枝の潜在量

(1) 可燃ごみ組成割合



グラフ 1市3町_可燃ごみ組成割合

生ごみ、剪定枝の潜在量

(2) 可燃ごみ組成量

表 可燃ごみ組成量

(単位:t/年)

項目	小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町	1市3町
厨芥	30,409	6,951	1,919	7,204	46,483
紙類	13,033	5,495	653	2,449	21,630
草木	6,868	827	361	1,355	9,411
繊維	3,287	480	52	195	4,014
プラスチック類	3,934	2,284	399	1,498	8,115
その他	1,174	513	87	326	2,100
合計	58,705	16,550	3,471	13,027	91,753

- 1 「その他」とは、ゴム・皮革類、その他可燃物類、金属類、ガラス類、陶磁器・石、電池、危険物等、
その他不燃物類
- 2 平成17年度実績から積算



分別の協力率

(1) 生ごみ

およそ 50%

(千葉県分別収集モデル事業から)

(2) 剪定枝

およそ 80%

(鎌倉市、野田市事例調査から)



3 議題

(2) 生ごみ、剪定枝のリサイクルに関する 環境負荷と経費

検討にあたってのケース分類

表 ケース分類

		概要	主な設定
ケースA		焼却処理	・現在の処理のまま
生ごみ	ケースB	小さな地域での堆肥化 (家庭、事業所、地域)	・10%の家庭が生ごみ処理機器を利用 ・各小学校に業務用生ごみ処理機を設置 ・事業者から排出される生ごみ10%は自己処理
	ケースC	大きな地域での堆肥化	・全地域を対象として生ごみを分別収集 ・分別の協力率は50% ・生成された堆肥は全量が利用
	ケースD	大きな地域での バイオガス化	・全地域を対象として生ごみを分別収集 ・分別の協力率は50% ・発酵残さは焼却処理
剪定枝	ケースE	小さな地域でのチップ化 と堆肥化	・主要な公園に小さな堆肥場を設置 ・事業者から排出される剪定枝の10%は自己処理
	ケースF	大きな地域でのチップ化 と堆肥化	・全地域を対象として剪定枝を分別収集 ・分別の協力率は80% ・生成された堆肥は全量が利用

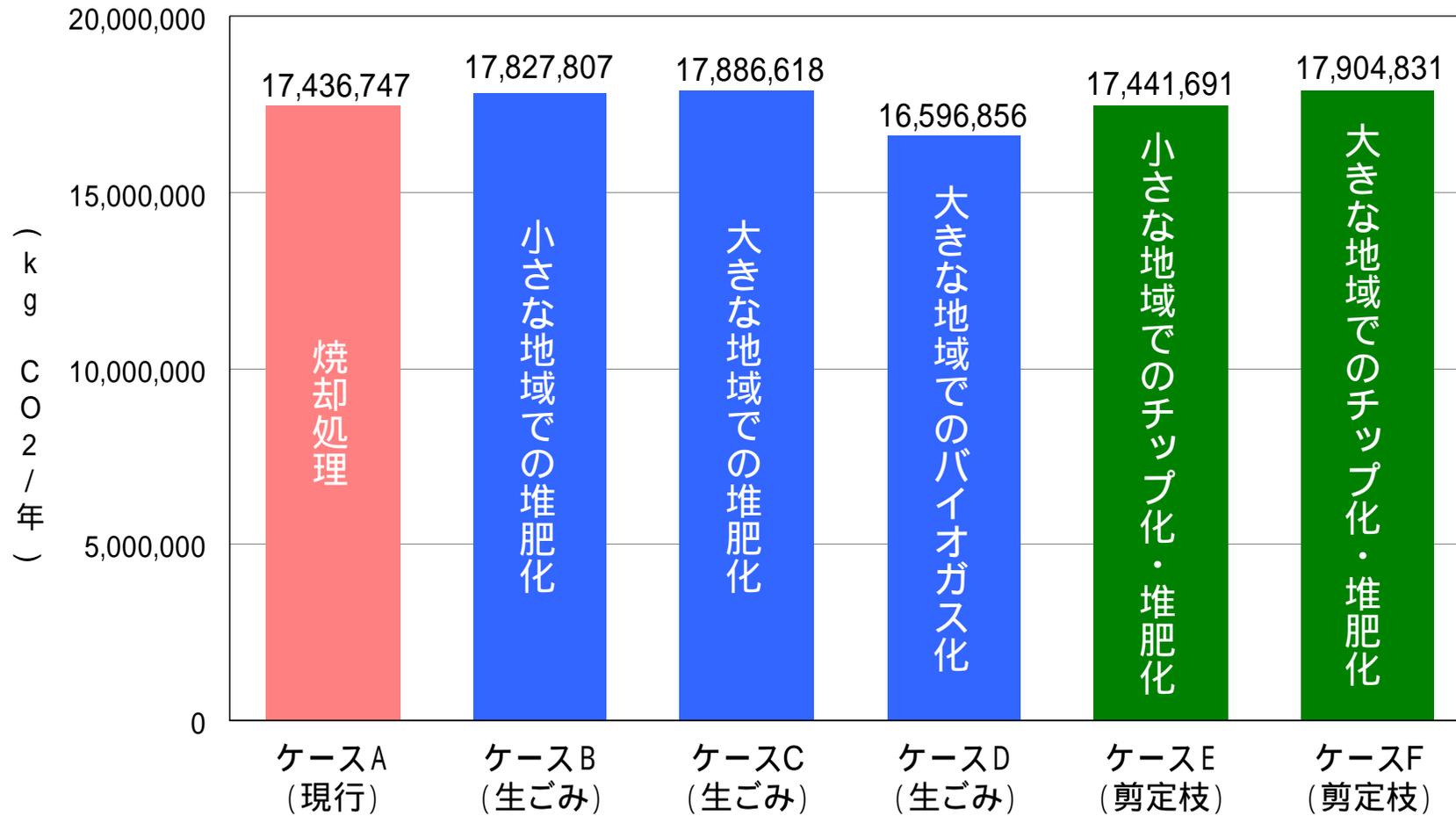
施設規模

表 施設規模

		概要	資源化施設	熱回収施設
ケースA		焼却処理		320 (t/日)
生ごみ	ケースB	小さな地域での堆肥化 (家庭、事業所、地域)		310 (t/日)
	ケースC	大きな地域での堆肥化	100 (t/日)	270 (t/日)
	ケースD	大きな地域での バイオガス化	70 (t/日)	270 (t/日)
	ケースE	小さな地域でのチップ化 と堆肥化		320 (t/日)
剪定枝	ケースF	大きな地域でのチップ化 と堆肥化	30 (t/日)	300 (t/日)

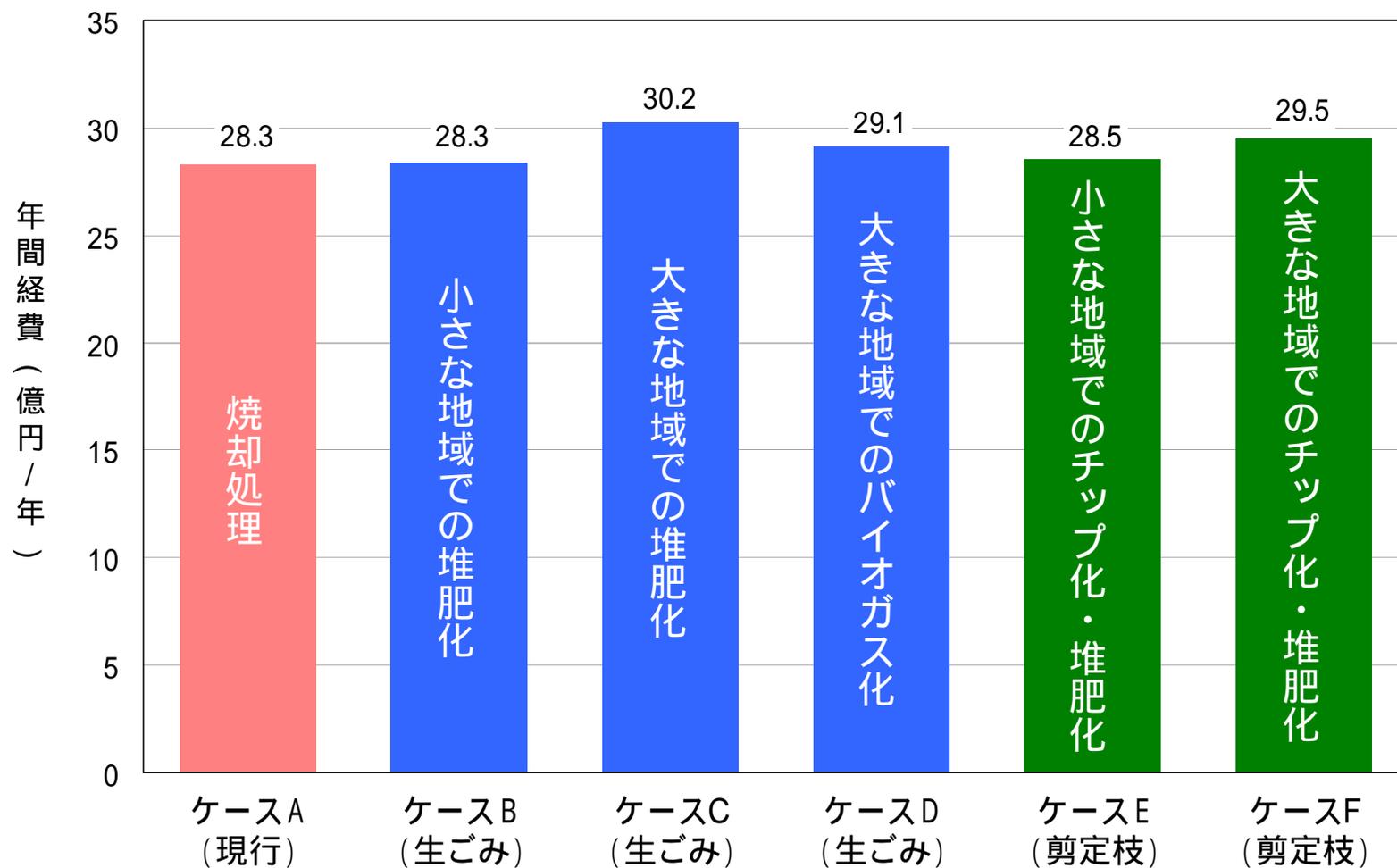
- 1 平成32年度のごみ量推計に基づき試算
- 2 資源化施設とは、堆肥化施設、もしくはバイオガス化施設

温室効果ガス排出量の比較



グラフ 二酸化炭素排出量の比較

年間経費の比較(減価償却含む)



グラフ 年間経費の比較(減価償却含む)



3 議題

(3) 今後の予定

今後の予定について

回数	検討内容
第5回	アンケート、意見・提案の結果報告について 第3回資源化検討会(施設見学)の報告について 生ごみ、剪定枝のリサイクル手法の協議検討
第6回	協議・検討
第7回	報告書(案)の協議・検討
第8回	報告書の承認